

扱 い

ラテ：令和5年11月24日 17:00 解禁

新聞：令和5年11月25日 朝刊

報道発表



令和5年11月24日

文化審議会の答申（登録有形文化財（建造物）の登録）

文化審議会（会長 佐藤 信）は、令和5年11月24日（金）に開催された同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、新たに290件の建造物を登録するよう文部科学大臣に答申しました。

この結果、官報告示を経て、登録有形文化財（建造物）は14,035件となる予定です。

1. 今回答申された登録有形文化財（建造物）の概要

	新規登録	累 計
登 録 件 数	290	14,035
関係都道府県数	38	47
関係市町村(区)数	93	1,017

○時 代 別 (件)

	江戸以前	明 治	大 正	昭 和			計
				前期 (S元～ S20)	中期 (S21～ S40)	後期 (S41～ S64)	
新規登録	58	80	59	42	45	6	290
累 計	2,518	4,417	2,848	3,574	623	55	14,035

○種 別 (件)

	産 業			交通	官公 庁舎	学校	生活 関連	文化 福祉	住宅	宗教	治山 治水	他	計
	1次	2次	3次										
新規	4	24	39	7	2	15	0	13	126	59	1	0	290
累計	128	1,461	1,748	525	247	449	334	490	6,300	2,042	224	87	14,035

(件)

	建 築 物	土木構造物	その他の工作物	計
新規登録	238	5	47	290
累 計	11,164	672	2,199	14,035

今回の答申における主なもの

① 北海道で唯一の白井晟一設計の作品

004 ヒノキ新薬株式会社ルスツ山寮 北海道留寿都村 昭和47年

尻別岳山麓に位置する企業の保養所。設計は独特な様式で知られる白井晟一。全体に緩勾配の切妻造りの大屋根を架け、外壁には石や濃淡のある煉瓦を用いて仕上げる。内部には薄いスラブの踊り場付き階段など、内外の要所に白井らしい意匠を配す。



提供：留寿都村教育委員会

② 北上川河口の復興を導く板倉

005～006 旧鈴木家住宅板倉ほか1件 宮城県石巻市 大正4年／令和4年移築

東日本大震災の津波で流された北上川河口の旧北上町役場跡地に移築された板倉。当地域特有の板倉で、窓庇の持送や置屋根の面戸板などを精緻な彫刻で飾り、大工の力量を示す。現在は飲食店として活用。



③ 八郎潟干拓地の景観をつくる住宅

015 旧大潟村入植予定者観覧用農家住宅 秋田県大潟村 昭和44年

大潟村中心部に位置し、干拓地への入植予定者が事前に供給住宅を観覧できるように建てたもの。設計は八郎潟新農村建設事業団。「三角屋根」と呼ばれ、大きな切妻造り屋根が、地域住民が親しむ景観をつくる。



④ ^{かんだがわ}神田川を渡る地下鉄用の橋梁

047~049 ^{まるのうちせんおちやのみずきょうりょう}東京地下鉄丸ノ内線御茶ノ水橋梁 ほか2件 東京都千代田区・文京区 昭和30年

御茶ノ水の神田川に架かる丸ノ内線の橋梁。設計は帝都高速度交通営団。地下鉄では貴重な車窓と風致地区の景観に配慮し、厚みが薄く、面取りした桁橋の表面を平滑に仕上げるなど当時の高い技術を用いる。



⑤ ^{おおくらきはちろう}実業家大倉喜八郎の息吹を伝える^{げいひんかん}迎賓館

080 ^{どうしゆんかく}蔵春閣 新潟県新発田市 明治45年／昭和33年・同53年・令和5年移築

かつて大倉喜八郎の^{むこうしまべってい}向島別邸にあった旧^{いまむらきちのすけ}迎賓館。設計は今村吉之助。八角形と四角形を組合せた^{しよっこうぐみ おりあげごうてんじょう}蜀江組の折上格天井とし、シャンデリアを吊るなど、^{ごうかけんらん ひろま}豪華絢爛な2階の広間を始めとして、各室に濃密な意匠を凝らした迎賓施設。現在は新発田市に移築。



⑥ オープンプランスクールの殿堂

130 ^{ぎょうしゅう}加藤学園 暁秀 初等学校本館 静岡県沼津市 昭和47年／平成17年・令和3年改修

沼津駅北東の市街地に位置する現役の小学校校舎。設計は^{まきそうごうけいかくじむしょ}楨総合計画事務所。学習センターを中心に、中庭を介して普通教室などを配し、^{かいへき}界壁を極力省いて、開放性を高める。日本初のオープンプランスクールを実現。



⑦ 意匠整った昭和初期の上質な庁舎建築

157 旧京都府警察本部本館（文化庁京都庁舎本館）

京都府京都市 昭和3年／令和4年改修

京都府庁旧本館の東に建つ旧警察本部本館。鉄筋コンクリート造地上3階地下1階建て。設計は京都府営繕課。全体に簡素な構成としつつ、内外ともに玄関廻りにアーチや装飾など意匠を集中させた、格調高い庁舎建築。現在は文化庁京都庁舎として活用。



⑧ 東山に建つ規模壮大な近代の仏堂

159～169 東福寺本堂ほか10棟 京都府京都市 昭和9年

東山に位置する臨濟宗東福寺派大本山寺院の本堂。設計顧問は天沼俊一。壇上積基壇に建つ、一重入母屋造り本瓦葺きで裳階付きとする。内部は四半敷土間で天井を高く張り、北寄り中央に須弥壇を配す。規模壮大で近代屈指の仏堂。



⑨ 御堂筋の都市景観を牽引するオフィスビル

172 御堂ビルディング 大阪府大阪市 昭和40年

御堂筋の本町に位置する大規模オフィスビル。設計は竹中工務店設計部。設備など中心部に配したセンターコアの平面を採用し、当時の技術を駆使して大スパン構造を実現。単窓の繰返しとタイル貼により格調高い外観に仕上げる。



⑩ 古市にそびえ建つ洋風の望楼

250～257 中野家住宅離れほか7件 山口県長門市 大正後期／昭和4年頃増築

^{あかませきかいどう}赤間関街道の古市にある元呉服商の屋敷。主屋の北に位置する離れは、賓客用の座敷棟で、その北西に建つ3階建ての望楼は、外壁を下見^{したみ}板張りとし、縦長窓を開け、洋風意匠とする。当地域のランドマーク的な存在。



⑪ 端正かつ優美な文化財収蔵展示施設

278 ^{かんぜおんじほうぞう}観世音寺宝蔵 福岡県太宰府市 昭和34年／昭和36年・平成21年改修

観世音寺境内に位置し、重要文化財の仏像等の収蔵展示施設。設計は伊藤要太郎^{いとうようたろう}。防湿、防熱効果を高めるため、ピロティと二重壁を採用した鉄筋コンクリート造2階建てとする。端正かつ優美な戦後の和風建築。



⑫ 沖縄を代表する昭和戦後のホテル建築

287～290 沖縄ホテル旅館棟ほか3件 沖縄県那覇市 昭和36年／平成5年改修

^{あさとえき}安里駅北東の市街地に位置するホテル。設計は仲座久雄^{なかざひさお}。各階の窓上には庇を廻らし、中央部の壁面やバルコニーに、中空のコンクリートブロックを装飾的に用いるなど、仲座らしい特徴をよく示す。



提供：那覇市市民文化部文化財課

<担当> 文化庁文化財第二課 電話：075-451-4111（代表）
課長 田中 禎彦
課長補佐 田中 佳幹
登録部門 清永 洋平、隅田 拳志郎（内線 9755）
審議会係 森 幸一郎、和田 智寛（内線 9756）